

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:黒地 忍

所属:富山大学人間発達科学部附属特別支援学校

記録日:2017年2月9日

キーワード:コミュニケーション、自助具

## 【対象生徒の情報】

### ・学年

中学部2年 男子

### ・障害名

知的障がいを伴う自閉症

### ・障害と困難の内容

ご褒美として教師に動物の絵を描いてもらっている。ご褒美が無いと授業から逸脱してしまうことが多い。

したいことを単語で伝えるが、語彙が少ないため伝えきれないでいる。

イライラすると、友達を叩いたり引っかいたりするなど他害をすることがある。

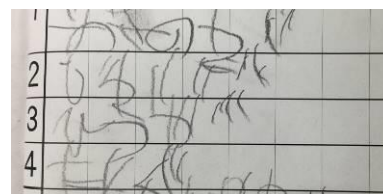
教師から叱られても、その内容が理解できない。だめなことが分かっている。やめられないことが多い。

書字が苦手である。

平仮名の拾い読みができる。



本人のご褒美コレクション



本人が書いた連絡帳の文字

## 【活動目的】

### ・当初のねらい

思いがあるのに、できない、伝えられない不自由さがストレスとなり、他害などの問題行動につながる人が多いと考えた。iPadを支援ツールとして、自分でできることや分かることを増やしたり、周りの人と思いを伝え合ったりできるようにすることで、学校をより落ち着いて過ごせる場所にしていきたい。以下の3点に取り組む。

① iPadで書いてほしい動物のイメージを教師に伝える。

② iPadを使って、学校であったことを母と話したり、自分の好きな物を友達に紹介したりすることができる。

③ iPadを活用することで、理由まで分かって活動できる場面を増やすことができる。

### ・実施期間

2016年7月～2017年2月

### ・実施者

黒地 忍

### ・実施者と対象児の関係

担任

## 【活動内容と対象児の変化】

①iPad で描いてほしい動物のイメージを教師に伝える。

### ・対象児の事前の状況

動物の名前を言ったり図鑑を示したりして、教師に描いてほしい動物を伝えていた。大きさは、担任が準備した四角い枠を渡すことで伝え、その中に絵を描いてもらうようにしていた。家や図書室から何冊も図鑑を勝手に教室に持ち込んだり、違う大きさに書いてほしいことをうまく伝えられなかったりするといった課題があった。



ご褒美の動物の絵

### ・活動の具体的内容

活動1：iPadで手紙を作成し、教師に渡す。

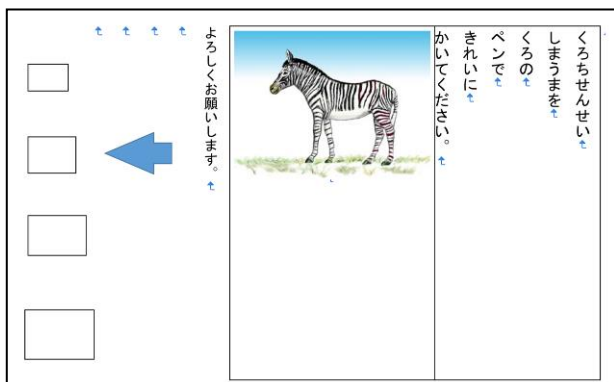
実施時期：9月～

使用アプリ：Word、写真、カメラ



書いてほしい動物のイメージを教師に伝えられるように、iPadで手紙を作成して渡すようにしようと考えた。手紙は、支援ツール『手紙辞典』を手掛かりに「描いてほしい教師の名前」「描いてもらう動物の名前」「ペンの色」などについて選択肢を選びながら、文章を入力できるようにした。インターネットからダウンロードした画像や自分で撮影した写真を挿入する枠を設け、図鑑を使わなくても書いてほしい動物のイメージを伝えられるようにした。大きさの違う四つの枠から一つを矢印で選ぶことで、描いてほしい大きさを表すことができるようにした。

一日を通して頑張って授業に参加し、チェック表の1時間目から6時間目まで全部に○がもらえると、手紙を一枚好きな教師に渡せることを約束した。(学校でだけ印刷している)



手紙



手紙を作成している様子



手紙を受け取る様子

### ・対象児の事後の変化1

「誰に絵を描いてほしいの?」と尋ねると、「〇〇先生と〇〇先生と・・・」と次々に名前が挙がり、とても楽しみにして取り組んでいた。手紙を作成するために文字を入力するときも、手紙の文章を音読してお願いするときも真剣な表情だった。家庭でも自分から手紙を作成する様子が見られた。iPadの操作を覚え、一人で手紙を作成することができるようになった。

必要なスキル	7月	9月	10月
インターネットで好きな画像を検索する。	○	○	○
好きな画像をダウンロードして iPad に保存する。	×	○	○
写真を撮る。	×	△	○
Word を起動する。	×	○	○
文字を入力する。	×	△	○
画像を挿入する。	×	△	○
矢印をドラッグして動かす。	×	○	○

×：できない △：手掛かりや部分的な手助けがあればできる ○：一人で行える

そこで次の段階として、手紙づくりで身に付けた「好きな画像をダウンロードして iPad に保存する」「写真を撮る」「画像を挿入する」などのスキルを活かして、教師にお願いしなくても自分でご褒美を作ることができるようにしようと考えた。

活動2：自分で iPad を使ってご褒美を作る。

実施時期：10月～

使用アプリ：EPSON Creative Print



ご褒美はがき

本人の大きさの好みから、8枚の写真が入るテンプレートをはがきサイズで印刷することにした。一日を通して頑張って授業に参加し、チェック表の1時間目から6時間目まで全部に○がもらえると、手紙を教師に渡すかご褒美はがきを1枚もらうか選べることを約束した。(学校でだけ印刷している)

### ・対象児の事後の変化2

すぐに操作の仕方を覚え、一人でご褒美はがきを作ることができるようになった。

必要なスキル	10月	11月
EPSON Creative Print を起動する。	○	○
テンプレートを選ぶ。	○	○
画像を挿入する。	○	○
画像の大きさを調整する。	×	○

毎日4枚程度ご褒美はがきを家で作ってくるようになった。動物ばかりでなく、船やマークなどの画像もご褒美はがきに使うようになったことから、興味の広がりが伺える。最近では、「こわす」「家に持って帰る」とこだわっていた児童生徒玄関の下駄箱や給食の皿など学校の物を、自分から写真にとってご褒美はがきにするようになった。

## ②iPad を使って、学校であったことを母と話したり

自分の好きな物を友達に紹介したりすることができる。

### ・対象児の事前の状況

学校での出来事を自分から家庭で話すことは無い。家庭での出来事を自分から学校で話すことは無いが、「週末はどこにいったの?」「何をしたの?」といった本人が分かる質問であれば「じいちゃんち」「プール」など単語で答えてくれる。

### ・活動の具体的内容

活動1：iPad を使って、学校であったことを母と話す。

実施時期：9月～

使用アプリ：PowerPoint



母に学校であったことを話すための手掛かりになるように、教師がiPadで学校生活の一場面を動画に撮り、それを持ち帰るようにした。動画を持ち帰っている意識を高めるために、下校前に動画を見て「ぼくは〇〇をしました」程度の簡単な日記を書くようにした。どの場面を撮影するかは本人に聞いて決めていたが、母親が見たい場面を「撮ってきて」と本人にリクエストする機会も作ってもらうようにした。



日記「ぼくは切り絵をしました。」

活動2：iPad を使って、自分の好きな物を友達に紹介する。

実施時期：10月～

使用アプリ：ByTalk for School



朝の会に「発表タイム」の活動を設け、クラス全員が週に1回程度「自分の好きなこと」「家でしたお手伝い」のどちらかを発表して、友達からコメントをもらう機会を作った。発表者は前日に家で撮影をし、ByTalk for Schoolに画像や動画をアップする。「発表タイム」では、発表内容が聞き手に伝わりやすいように、その画像や動画をテレビに映しながら発表できるようにした。



発表タイムの様子

### ・対象児の事後の変化

#### 活動1について

家に持ち帰った動画を繰り返し見て、楽しむ様子が見られた。しかし、自分から母親にiPadを「見て」と持って行くことはほとんど無かった。母親からの促しにより一緒に動画を見て、「これ何してるの?」「どうだった」などのやりとりを一緒に行うことができた。母親に「〇〇を撮ってきて」とリクエストされた日は、

教師に「〇〇を撮って」と自分から依頼するようになった。

### 活動2について

開始当初から、「自分の好きなこと発表」前日に自分からおやつを写真に撮り準備する姿が見られた。

12月には、自分から母親にやり方を質問し、「ByTalk for School」に好きな物の写真をアップすることができるようになった。



好きな物「DVD」

③ iPad を活用することで、理由まで分かって活動できる場面を増やすことができる。

### ・対象児の事前の状況

本人は、この1年程の間に随分落ち着いて学校生活を送ることができるようになった。それは、頑張れば動物の絵を描いてもらえたり、動物のシールがもらえたりするトークンによるところが大きい。しかし、何故そうしなければならないのか、何故我慢しなければならないのかといった理由までは、分かっていないことが多いと思われる。教師から叱られても、意味が分からず困っているのではないだろうか。今回は、ハンカチを学校に持ってこない点と、9月頃から見られるようになった特定の友達に抱きつく行動について指導を行った。

### ・活動の具体的内容

取組1：ハンカチを学校に持ってこよう編

実施時期：9月

使用アプリ：カメラ



まずハンカチを学校に持ってくる理由が分かっているか確認を行った。「ハンカチで手を拭いたら、ばい菌？、きれい？」「手にばい菌がいたら、病気？、元気？」というように選択肢を絵で二つずつ示し、意味が分かっているかを確認した。

次に、ハンカチを忘れ手を拭かずにトイレから出てくる様子を動画で撮影し、本人と一緒に数回振り返ったり、ハンカチを持ってくる意味の写真を見せながら再度確認したりした。



ハンカチを持ってくる意味

### ・対象児の事後の変化

4月から7月までの間、ハンカチを持ってきたのは15日程度だった。

二つの選択肢から正しいものを選んだので、ハンカチを持ってくる意味は分かっていた。意味は分かっているのにできていないという現状が確認できた。ハンカチで手を拭かずにトイレから出てくる様子を動画で見た時に「失敗したなー」という表情を見せた。それから数日後に突然ハンカチを持ってくるようになった。それからはほとんど毎日ハンカチを学校に持ってきている。絵や写真で理由を説明したり、動画で自分の姿を振り返ったりすることが有効であることが分かってきた。

## 取組 2：友達と素敵に接しよう編

実施時期：12月

使用アプリ：カメラ



友達とよい接し方をする意味（一部）

### ・活動の具体的内容

まず友達には抱きつかず挨拶をしたり握手をしたりする方が望ましいことの原因が分かっているか確認を行った。「抱きついたら、仲良し？、きらい？」「挨拶をしたら、仲良し？、きらい？」というように選択肢を絵で二つずつ示し、意味が分かっているかを確認した。また、抱き着くことが多いA君、B君の協力を得て、「抱き着かれるのは嫌です」「挨拶は嬉しいです。仲良くなれそうです」と本人出演の教示ビデオを作成して本人に見せた。

次に、A君、B君に抱きついている様子を動画で撮影し、本人と一緒に数回振り返ったり、友達と抱きつかず挨拶をしたり握手をしたりする方が望ましい理由を写真や教示ビデオを見せながら再度確認したりした。

仲良しの  
「笑顔カード」  
(嫌いは「オニ」)

確認に  
使った絵



本人出演教示ビデオ

### ・対象児の事後の変化

ハンカチの時とは異なり、初めは二つの選択肢から正しいものを選べなかった。相手の気持ちを察することが難しいようである。本人出演教示ビデオを見せると、選択肢を正しく選ぶことができるようになった。友達に抱きついている動画を見るのを嫌がることから、よくないことを自覚していると思われる。取組前は、出会うといきなり抱きつくことが多かったが、取組後は挨拶をしたり握手をしたりするだけに留めようと自分から我慢することが多くなった。継続して取り組みを積み重ね、本人の理解と頑張りを支援していきたいと考えている。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき1

友達への意識が高まってきたのではないかな。

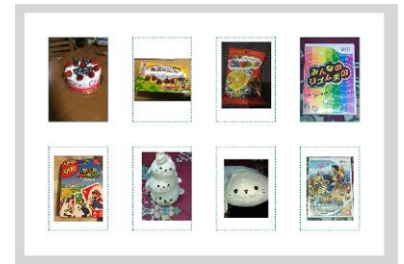
### ・エビデンス

母には動画日記を自分から見せなかったが、朝の会「好きなこと発表」のために自分から好きな物の写真を撮ったり「ByTalk」にそれをアップしたりすることから、友達に伝えたいという意欲の高さが伺える。友達が「好きなこと」として「ByTalk」にアップした画像を使ってご褒美のカードを作成したことがあった。また、ご褒美のカードを友達と一緒に見ている様子も見られるようになってきた。

以前は、「〇〇くん、きれい」「一人クラス (になりたい)」とよく言っていたが、最近は言わなくなった。特定の友達に抱きつくようになったことも、友達への意識の高まりからかもしれない。



友達とご褒美はがきを見る様子



友達の好きな物で作ったご褒美はがき

### ・主観的気づき2

学校がより落ち着いて過ごせる場所になってきたのではないかな。

### ・エビデンス

自分が欲しいご褒美を自由に作れるようになったことにより、「ご褒美をもらえるようにがんばろう」という意欲が高まったのではないかな。当初、想定していた「〇〇を描いて」という教師とのやりとりはほとんど無くなったが、ご褒美はがきを教師や友達と一緒に見て「上手だね」「これ何？」など自然にやり取りをする機会が学校生活の中で増えた。友達への意識も高まり、友達からストレスを感じることも少なくなったと思われる。

また、文字入力スキルを活かして連絡帳を iPad で作成できるようになった。扱いに慣れたカメラやパワーポイントを使って、日課の変更点を写真で伝えたり授業をスライドで進行したりできるようになった。他場面でも iPad を活用してできることや役割が増えてきており、本人も充実感を味わっているのではないだろうか。

今年度は、他害が一度も無い。落ち着いて過ごしていることの全てがこの取り組みによるものだとは思わないが、本人にとって iPad が大きな支援ツールの一つになったと思われる。



連絡帳



日課確認係



授業の進行係